

# 会報

第314号

岩手県小学校長会  
代表 紺野好弘  
事務局 TEL.019(623)8955  
盛岡市紺野町2の9  
盛岡市勤労福祉会館2F  
印刷 富士屋印刷所

## 第六十二回東北連合小学校長会研究協議会 岩手大会 参集しての開催

第六十二回東北連合小学校長会研究協議会岩手大会が、七月七日(木)、八日(金)に盛岡市で開催された。コロナ禍ではあるが感染対策を講じ、三年ぶりの参集型の東北大会である。東北連合小学校長会の連携を深めるとともに、「東北は一つ」との思いを新たにする二日間になった。

大会長あいさつ(要旨)  
東北連合小学校長会

会長 紺野好弘

「黄金の國、いわて」、そして「人々が集まり、人にやさしい、世界に通ずる元気なまち盛岡」に、ようこそお越しくださいました。岩手県小学校長会会員二百八十九名、心を込めて歓迎いたします。

今、本県出身のスポーツ選手が、コロナで沈滞した世の中のムードを一掃するよう、目覚ましい活躍を見せています。なぜ岩手からこのようなスポーツ選手が輩出されるのかを考えたとき、詩人で彫刻家の、高村光太郎の「岩手の人」という詩が思い浮かびました。この詩の中に、岩手の人は「冷静沈着で思慮深



開会行事

く、世の流行や周囲の雑音に惑わされることなく、目標達成に向けコツコツ努力する」とあります。岩手の小学校教育が、彼らのような、冷静沈着で思慮深く、目標達成に向け、コツコツ努力を重ねる若者を育てたとすれば、非常に誇らしい気持ちになります。

さて、今年度の大会は、復興へのさらなる歩みに向けた非常に意義深い大会です。本県では、津波で被災した沿岸小学校の学校建設は終了しておりますが、その一方で、未だ継続的な心のケアが必要な子どももあり、教育の復興に向けた取組は、今後も最重要課題ととらえております。復興に向けた取組やその願いを共有するとともに、これからも歩みを止めることなく、子どもたちのために東北連合小学校長会一丸となって前進してまいりたいと存じます。このことを踏まえ、今大会のシンポジウムは、「震災からの復興〜子どもたちに夢と希望を〜」をテーマとし、シンポジストに当時の思いやこれまでの歩み、そして、東北の子どもたちや私たち校長に期待することを語っていただきます。また、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を

指した学習指導要領が実施されてから三年目を迎えております。私たち校長は、教育改革の動向をしっかり把握するとともに、子どもたちにとって何が必要なのかを見極め、学校を組織として効率的に機能させながら、日々、着実に取り組んでいくことが重要な責務であると考えます。分科会では、各県からの発表レポートをもとに、会員相互の実践を共有しながら、校長の果たすべき役割と指導性について熱心な協議が繰り広げられることを期待しております。

コロナ禍だからこそ、「東北は一つ」を標榜する東北連合小学校長会の組織を生かし、これまで先輩たちが築き上げてきた確かな教育実践を受け継ぐとともに、ポストコロナの時代を見据えた新たな教育活動に向かい、教育実践を積み重ねること、また研究大会においてその実践を共有し合いながら、校長としての学びを深めていくことが重要であると考えます。

結びになります。本大会の開催にあたり、温かいご指導とご支援をいただきました関係各位に心より感謝申し上げます。大会開催の挨拶といたします。

### 祝 文部科学大臣表彰

岩手県小学校長会

会長 紺野好弘 氏

九月五日(月)、国立劇場(大劇場)において、学制百五十年記念式典が挙行されました。その中で、文部科学省による、令和四年度教育者表彰が行われました。

本県小学校からは、岩手県小学校長会会長 紺野好弘氏(盛岡市立桜城小学校長)が、「多年にわたり教育者として我が国の学校教育の振興に尽力され顕著な功績を挙げられた」として表彰を受けられました。

当日は、永岡桂子文部科学大臣の式辞の後、天皇陛下の御言葉、表彰状の授与及び記念品の贈呈がありました。

紺野会長は、今回の受賞について「岩手県小学校長会を代表して受賞してまいりました。皆様のこれまでのご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。今後も岩手の教育に関わる全ての方々とともに、子どもたちの健やかな成長に向け、尽力していく所存です」と話されています。

会員一同、心からの祝意を表したいと思います。誠にありがとうございます。



シンポジウム

# シンポジウム テーマ「震災からの復興 子どもたちに夢と希望を」

シンポジウムでは、株式会社テレビ岩手東京支社営業部 副部長 廣嶋文樹氏、株式会社 8 k u r a s u 防災教育担当 菊池のどか氏、岩手県立図書館長 藤岡宏章氏をシンポジストにお迎えし、東北連小研究部長 吉田久美子校長のコーディネートにより、「震災からの復興子どもたちに夢と希望を」をテーマに、震災から十一年間の思いや願いをそれぞれの立場から語っていただいた。

「震災当時を振り返って思うこと」「復興のために十一年間取り組んできたこと」「子どもたちに夢と希望をもたせるために、今思うこと」の三つの視点に沿って話を伺った。

はじめに、「震災当時を振り返って今思うこと」について、当時中学生だった菊池氏は、「命を守るために大切なことは、家族や守りたい人たちとの信頼関係を築くこと、自分は自分で避難するということを普段から周囲の人に知らせておくこと。そして、地域の人たちと一緒に活動することや防災について素直に話を聞くことが大切である」と語った。また、被災して避難所にいる子どもたちを取材した廣嶋氏は、「遊ぶ場所もなく縮こまっていた子どもたちをなんとか笑顔にしたい。元氣と勇気を与えたい」と、報道の立場からできることはなにかを探ったという。

勤務されていた藤岡氏は、「学校をいち早く再開することが子どもたちのため」と三月末までに「学校再開マニュアル」を作成。四月からは復興教育の立ち上げのため、「復興教育プログラム」作り着手した。また、県教育委員会と市町村教育委員会、そして校長会と役割分担をしながら協働体制で被災地支援を始めた。

次に、「復興のために十一年間取り組んできたこと」へ話題は移る。廣嶋氏は、「子どもたちに笑顔を与えるためには、ヒーローをつくるのが一番いいのではないかとスタツフ皆で話し合った。震災復興を掲げるならプロに頼むのではなく、『自分たちの手でゼロから立ち上げていく過程そのものが復興』との思いを込めて、『鉄神ガンライザー』の制作を行った」と、話された。

藤岡氏が震災一年後に赴任した野田中学校では、「野田村の太陽になろう」というスローガンを掲げ明るく活動をしている生徒たちが社会参画する機会をつくり、その活動を形に残すことを大切にしていた。また、課題とする心のケ

アについて、表現活動が有効であるというスローパーバイザーの助言もあり、創作太鼓の活動を取り入れていったとのことである。

震災の語り部として十一年間活動してこられた菊池氏は、中・高生時代を被災地で、大学生時代は、被災地とは無関係の街で過ごした。そして、現在は親となり、再び釜石で生活をしている。この十一年間、様々な立場で変化していく釜石を見ていくうちに、自分の街を多くの人に知ってほしいという思いを一層強くしていったそうである。

最後に、「子どもたちに夢と希望をもたせるために、今思うこと」を話していただいた。

藤岡氏が「キーワード」と話されたのは「社会総がかり」である。学校の創造性と行動力に加え、地域の活力をどう取り入れるか、さらに社会の包括的な支援の必要性を話された。また、現在県立図書館長としての立場から、「図書館は、知の拠点であり情報の拠点。震災資料を収集、整備し、研究の拠点づくりを進めたい。それが震災の

風化の防止にもなる。ハブ的機能をもつ場にした」と、話を締めくくった。

菊池氏は、「生き残るためには強さが必要。生き抜くためには柔らかさが必要。良いことも悪いことも柔軟に対応していける心が大切だと感じた。生き残ることができ子どもになつてほしい」と、防災教育や地域と関わり合うこととの大切さを語った。

廣嶋氏は、番組制作を通して、「子どもたちには、目の前の困難にちゃんと向き合い、自分でクリアできる力を与えたい。勇気を与えたい」その思いで十一年間走り続けてきたという。さらに続けた「子どもたちは地域の宝」という言葉。子どもたちの笑顔のために尽力されてきた熱い思いが伝わってきた。

シンポジストからの  
メッセージ

「白鳥入蘆花」  
(廣嶋 文樹氏)

「ありがとう」  
(菊池のどか氏)

「これから 歩みは とまらない」  
(藤岡 宏章氏)

**第一分科会(経営・組織・運営)****目指す学校づくりと組織・運営の活性化**

花巻市立湯口小学校

佛川 恒明

視点一「学校の課題を明確にした学校経営の推進」では、福島県校長会が「将来を見据えた魅力ある学校経営・運営ビジョンの策定」について発表し、ビジョンの策定の在り方と具現化を図る上で校長の役割について報告された。課題分析の視点と現状把握、そして課題解決のための役割分担や、評価制度とを有機的に結び付けていくことが成果として挙げられた。

視点二「教職員の参画意識を高揚する活力ある組織・運営」では、花巻小の菅野校長が「教職員の参画意識を高めるための校長の果たすべき役割」について発表し、コロナ禍で教職員同士のコミュニケーションが不足し「報告・連絡・相談」が滞っても、主任への働きかけ等の工夫で改善し、職員を認めますことの大切さが改めて確認された。

グループ協議では、岩手の大きな課題である、教員の年

齢層の偏り、特に五十代が占める割合と今後の二十代の増加は、他県も例外ではないことに驚かされた。それを打開するための他県(校)の実践例として、二十代教諭を主任に配置し、五十代を副主任としてサポートさせることで、五十代のモチベーションを維持しつつ後継者の人材育成にもつなげている等、教例が紹介された。教職員の参画意識、つまりは人づくり・組織づくりはこれからも大きな課題であり、解決するための新たな切り口を考える貴重な研修であった。

**第二分科会(評価・改善)****教育活動の活性化を図る学校評価と学校運営の改善**

矢巾町立徳田小学校

長谷川 幸代

視点一「教育の質の向上を目指した学校評価・運営の構築」では、山形県川西町小学校長会の発表をもとに、「学校経営に生かす学校評価」や「学校、家庭、地域が連携を深める学校評価」について協議をした。目標や教育活動、評価内容の一体化を図ること、学校評価の有効性が高

まった事例や校長のリーダーシップのもと、スピード感をもって課題を可視化し、教育の質を向上させた事例が紹介されるなど活発な意見交流がなされた。また、学校と地域との協働関係の構築の大切さについても確認できた。

視点二「学校の活力を高める学校評価・教職員評価」では、岩手県胆江地区校長会の発表をもとに「教職員評価に係る効果的な取組」や「組織力・教職員の資質向上」について、協議を行った。グループ協議から、学校の活力を高めるためには、校長が明確なビジョンをもつこと、そして教職員が同じ眼差しで前に進むためには、説明や賞賛が大切であることを確認した。また、副校長や教頭及び中堅層に対してどのように話をし育てていくかが、組織力の向上に関わることが確認できた。学校の責任者である校長の在り方を学ぶことができた。この他に他県の教育事情や特色ある教育実践も知ることができた。また、秋田県東成瀬小学校の校長の言葉から刺激を受け、大変有意義な一日となった。

**第三分科会(知性・創造性)****知性・創造性を育む教育課程**

一関市立新沼小学校

大鷹 真

視点一では、青森県南地方校長会より「教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの推進」についての実践が発表された。カリキュラム・マネジメントの三つのカテゴリーを推進の視点にとらえ、先進事例を各校の実践につなげた結果が報告された。グラントデザインを用い学校経営の全体像を俯瞰しとらえさせていくことや、PDCAサイクルを自校の実態に合わせ職員とともに改善することの有効性、また、コロナ禍においても機を見て地域に向けて人的・物的資源の確保を積極的に働きかけていくことの必要性等が明らかになった。

視点二では、本県一関地方校長会より「知性と創造性を育む教育課程と校長の在り方」について発表され、評価シート及びプランニングシートを活用した実践が報告された。期日と担当を明示することにより重点部分が焦点化されていった事例等が紹介さ

れ、シートで可視化し身近な環境で意識させていくことの有効性が明らかになった。また、校長の役割として、ボトムアップ式に教職員の声を拾い上げること、参画意識を高めていくこと、常に改善の意識をもたせていくプランニングが必要であること等が提案され、校長がどの場面でもどのようにリーダーシップを発揮していくかを考える機会となった。

**第四分科会(豊かな人間性)****豊かな人間性を育む教育課程**

岩泉町立小本小学校

長山 ゆかり

本分科会では、百十四名が十九グループに分かれ、熱い協議が展開された。

まず初めに、視点一「他と共に、よりよく生きるための人権感覚の育成」について、秋田県由利本荘市立由利小学校の小番雅和校長が発表した。人権教育に関する学校アンケートや、人権感覚についての教職員による自己チェックリストの実施等により調査を行い、人権教育全体計画・年間指導計画と校内研修の見直しといった課題が明確化さ

れ、人権教育の視点でのカリキュラム・マネジメントの推進と研修体制の整備、人権教育に係る保護者・地域との連携の重要性等、校長の役割の実践が紹介された。

次に、視点二「豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善」として、宮古市立花輪小学校鈴木有希校長が発表した。特に高学年児童の自己肯定感の向上と、豊かな心を育成するカリキュラム・マネジメントを推進し、校長としての役割や指導性として学校経営方針への明確な位置付けと人材育成、地域連携の啓発といった実践が紹介された。

グループ協議では、チェックリストの有効性と、子どもを褒めることの大切さが確認された。自分を大切にし、他者よりよい未来を切り拓くために、学校ではいかに指導し豊かな体験を仕組んでいくか、様々な意見交換がなされた。環境が違えど、子どもたちの笑顔のために、日々悩みながらも学校経営に取り組みながら校長の姿に、胸が熱くなる分科会であった。

### 第五分科会(健やかな体)

未来に夢を描き、生きる力を育てる健康教育・環境教育の推進

久慈市立久喜小学校

梅野 展和

第五分科会では、参加者百八名が十八グループに分かれて協議を行った。

視点一では健康教育をテーマに、「仙台市健やかな体の育成プラン」の取組をもとに、望ましい生活習慣、運動習慣、食習慣の確立のために、校長の果たすべき役割や指導性について発表が行われた。

この発表では、健康教育推進のための校長の果たすべき役割として、各教科等の関連を図った教育課程の編成、家庭や地域等との連携の充実、教職員の意識向上と取組を推進するための人材育成の重要性が挙げられた。

視点二では環境教育をテーマに、久慈地区五校の地域の特性を生かした体験活動について発表が行われた。

この発表では、各校で行われている環境教育の取組から、校長の関わりを「三つの視点」に整理した。さらに、環境教育の取組の概要と、

「三つの視点」を合わせて整理した「リレーシヨンシート」を作成し、各校の実践をまとめていた。コロナ禍の中、体験活動の実施で苦勞しつつも、体験活動の目的を達成させるような校長の関わりが整理されていた。

グループ内では発表と関連して各県の実践が交流され、校長としてのビジョンとリーダーシップの大切さを共有することができた。

### 第六分科会(研究・研修)

学校の教育力を高める研究・研修

盛岡市立洪民小学校

菊池 康幸

視点一「実践的な指導力を高める校内研修体制の推進」

については、「学校の教育力を高める校長としての責務」を高める校長としての責務、教職員一人一人の資質や指導力の向上を求めて」と題して福島県郡山市立大槻小の酒井健校長から発表がなされた。

視点二「将来への夢や展望、参画意識をもたせる研修の推進と職員の育成」については、「参画意識をもち学校の教育力を高める職員の育

成」と題して盛岡市立玉山小の小川口郁子校長からの発表であった。

これら二つの発表には「学校の教育力を高める」という共通のねらいがあり、視点一の趣旨と視点二の趣旨を並べても研究自体が非常に似ていることが分かる。しかし、視点一では、「授業スタンダード」を活用した授業づくりや教員としてのスタートアップを図る「教師塾」の活用等、具体的な実践の紹介があり、視点二では、教職員個々を生かす取組や組織マネジメント構築、教職員への配慮等、アンケート結果をもとに、それぞれの学校事情を踏まえた実践の紹介があり、どちらの発表も特徴のある非常に興味深いものであった。

コロナ禍中、様々な感染予防対策をしながらではあったが、お互いの顔を見合わせ、普段校長として感じていることを率直に伝え合える時間となったことが嬉しいと感じた。

### 第七分科会(学校安全)

安全・安心な学ぶ環境づくり

陸前高田市立竹駒小学校

大竹 博行

視点一では、山形県最上地区から「自ら命を守る安全教育の推進と校長の在り方」の実践が報告された。地区の実態や各校の共通課題を踏まえ、自校の安全教育を再点検し、課題解決に向けた取組であった。学校経営の中に「安全教育」のうちの教育の目標の明確な位置付け、「活動に必要な人的支援」「関係機関との連携を図り職員研修に結びつける」など、校長の果たすべき役割と指導性について再確認することができた。校舎内外の安全点検について、教職員と児童が一緒に行う実践例には驚きを感じた。

視点二では、「地域・家庭・関係機関との連携・協働による意図的・計画的な取組の推進」について小職が発表し、協議を深めた。学校運営協議会や地域学校協働活動など、既存の組織を生かした上で、地域に顔の見える校長になることが必要であると感じた。また、連携・協働による取組の重要性を理解させ教職員との意思疎通を図り温度差をなくす、教職員のコンセンサスの必要性が指摘された。これらのことから教職員の育成における校長の役割を再確

認することができた。

分科会後、参会者から、「防災・生活・交通安全が主であり、いじめや不登校といった課題についての協議も必要であると感じる」との声をいただいた。安全・安心な学ぶ環境づくりのための視点として、校長の果たすべき役割を考えて実践していきたい。

### 第八分科会(危機対応)

#### 防災教育や自然災害への対応

滝沢市立鶴飼小学校

中村 美以子

視点一「自然災害の特性を理解し、自ら判断し行動できる防災教育の推進」では、青森県八戸市小学校長会が、「自ら判断し行動できる子どもを育てる防災教育の推進と校長の在り方」について発表した。「自分の命は自分で守る力」の育成のため、八戸市内の防災教育実践事例を共有し各校の体験的活動を活性化させたことから、防災に係るカリキュラム・マネジメントの大切さが確認された。八戸市防災ノートの活用も話題となり、地域の実情に応じた防災教育活動の事例が活発に協

議された。

視点二「学校単独の取組や他校種、地域との連携した防災対応の推進」では、滝沢市校長会が「事故を未然に防止する危機管理と学校体制づくりについて」を新型コロナウイルス感染症対応の取組事例を通して発表した。市内各校の感染症対策の対応や取組の成果と課題から、危機管理の在り方や市教委、保護者との連携、校長の果たすべき役割を明らかにした。未だ先の見えない感染状況下での校長の悩みや取組の具体が話題となり、共感し合いながら切実感のある協議となった。児童の命と健康を守るため、校長間の情報共有と実践交流の意義や、学校全体で危機管理意識を高める必要性を真剣に協議し、大きな示唆を得ることができた分科会であった。

### 第九分科会(自立と社会性)

#### 自立と社会参加を図る教育の推進

大槌町立大槌学園

小石 敦子

視点一「自立と社会参加を図る特別支援教育の推進」で

は、大館市立矢立小の藤嶋俊英校長から「自立と社会参加を図り、支援の質を高めるための校長の役割」について発表があった。支援の質を高めるためには、校長のリーダーシップのもと、児童の実態や対応の仕方を全教職員で共通理解しながらチームで対応することや、校長が日頃から専門家（機関）と連携すること、戦略的に教職員研修を設定していくことなどが報告された。

視点二「未来への夢や志を育むキャリア教育の推進」では、軽米町立小軽米小の高橋利明校長から「地域と協働する学校経営の在り方」コミュニティ・スクールの活性化とキャリア教育を充実させる取組を通して「」について発表があった。キャリア・パスポートに地域学習を記録し、学校運営協議会で公開・共有することにより、地域活動の改善や見直しを図ること。それを、子どものキャリア形成のために有効なものに繋げていくことなどが報告された。発表の後には、視点一と視点二のグループ協議が行われ、見が交わされ、「校長の役

### 第十分科会(社会との連携・協働)

#### 家庭・地域・異校種等との連携・接続の推進

遠野市立青笹小学校

鈴木 久美子

割」について確認することができた。限られた時間ではあったが、各県の校長と協議し交流ができたことは、今後の大きな財産となった。

視点一「家庭・地域と連携し、地域に貢献する学校づくりの推進」では、宮城県北部管内小学校長会の発表が行われた。学校と家庭、地域が行っている連携取組を内容ごとに分類し、その成果を子ども・教職員・地域の視点で分析したもので、連携の実態を具体的に把握することができた。成果として学習意欲やコミュニケーション能力の向上が図られており、一方、多忙化の解消に繋げるためには、連携の目的を共有することが必要であることも明らかになった。視点二「幼保・小・中等との連携と円滑な接続のための組織的な取組の推進」では、遠野市小中学校長会の実践を小職が発表した。小・中連携を

組織的に推進するための校長の役割を「十の視点」に分類し、中学校区での共通取組の実際を提案した。その後のグループ協議では、育てたい資質・能力に照らして内容を見直すことの必要性や中学校区全体のランドデザインを描いていくためには、校長間での交流が大切であるなど、活発な意見交流が行われた。さらに、どの都道府県においても、コミュニティ・スクールの現状への関心が高く、今後は学校運営協議会を基盤としての連携をどのように進めていくのが課題であり、校長間でも情報を共有しながら進めていきたいと思っ

た。



グループ協議の様子

# 地区校長会研究交流

## 社会の変化に主体的・協働的にかかわりよりよい未来を創る二戸の教育

### 二戸地区校長会

#### 一 はじめに

二戸地区校長会は、小学校二十一校、中学校七校で組織されています。その内、小学校部会では二戸、軽米、九戸、一戸の四ブロックに分かれ、中学校では、七校合同ブロックとし、ブロックを基本単位として学校間連携を密にしながら活動をしています。

研究においては、右記研究主題に基づき、また、岩手県小・中学校長会の研究の趣旨及び研究の視点を踏まえながら、各ブロック独自の研究主題を設定します。会員相互による協議や情報交換を図りながら日々研究推進に当たっています。

#### 二 研修計画の概要

今年度は、次のような方針で進めて参ります。

・岩手県小・中学校及び本地区校長会の活動方針に基づき、校長としての資質を高

め、職能の向上を図るとともに学校経営の充実を目指した研究・研修を推進します。

・ブロック単位の校長会で共同研究体制をつくり、必要に応じて、本地区全体での広域研究体制を設けて研究の充実を図ります。

・年間を通じてブロックごとの研究推進に関する情報交換を行います。

・本地区研究大会開催に際しては、岩手県小・中学校長研究大会が行われない年度に隔年開催し、実行委員会を組織の上、大会の運営推進に当たります。(今年度の地区研究大会は開催なし)

#### 三 小学校の研究概要

本地区では、小・中学校で統一した研究主題は設定せず、各校種、地域に応じた諸課題や、県全体として育成を

目指す児童生徒の姿を踏まえた主題を設定しながら研究、研修を進めています。

その内、小学校では現在、ブロックごとに次のような研究課題や分野に取り組み、研究を推進しております。

#### ①二戸ブロック

福岡小・仁左平小・中央小・二戸西小・石切所小・御返地小・金田一小・浄法寺小の八校で構成され、研究領域Ⅲ、研究・研修分科会「学校の教育力を高める研究・研修」視点一に取り組みます。(二年次)

〔岩手県小・中学校長研究大会釜石大会発表予定〕

#### ②軽米ブロック

軽米小・晴山小・小軽米小の三校で構成され、研究領域Ⅴ、自立と社会性分科会「自立と社会参加を図る教育の推進」視点二に取り組みます。(二年次)

〔東北連小校長研究協議会岩手大会で発表〕

#### ③九戸ブロック

伊保内小・長興寺小・戸田小・山根小・江刺家小の五校で構成され、研究領域Ⅳ、危機対応分科会「防災教育や自然災害への対応」視点二に取り組みます。(一年次)

〔岩手県小・中学校長研究大会二戸大会発表予定〕

#### ④一戸ブロック

一戸小・一戸南小・鳥海小・小鳥谷小・奥中山小の五校で構成され、研究領域Ⅱ、知性・創造性分科会「知性・創造性を育む教育課程」視点一に取り組みます。(三年次)

また、令和三年度に行つた地区研究大会では、研究のまとめとして、次のような課題を共有することができました。

・「校長の役割」についての研究であるが、副校長や教務主任等の関わりなくしては具現化できない取組である。チームとして共通理解、意思疎通をいかに図っていくべきかを考えていくこと。

・学校と地域・保護者が同じ方向を向いて実践できるよう、地域へのアナウンスの方法や協働実践できる活動について更に検討する必要があること。

・今後は小・小連携をより深めるとともに、その成果を生かして小・中連携の強化を図っていく必要があること。

・新たな教育機器の導入によ

り、従来の研修に加え、新たなICT活用研修が必要となること。活用した実践を可能な限り教職員間で情報共有し、必要に応じて自由に活用できるデータベース化を図ること。校内研修、校務の情報化を学校経営に盛り込む必要があること。

#### 四 終わりに

持続可能な学校指導・運営体制の構築が求められる今、日々山積する諸課題に対応する手掛かりは、研究の中にこそあるように思います。これまで多くの先輩方が残して下さった研究成果と現在進行中の最新の研究に基づいた提案、試案こそ学ぶべき宝であると考えます。その視点に立って自身も研究に携わる時、自校の児童のために、少しでも役立ち、効果の上がる取組にしなければという思いに駆り立てられます。

いまだ収束が見通せないコロナ禍において模索し、解決の糸口を探りするような状態ではありますが、未来を担う子どもたちのため、今年度も研究実践の歩みを確実に進めて参りたいと思います。

(九戸村立戸田小学校

佐々木伸也)

## 新たな教育課題への対応

# ICT活用による教育の充実

～ICT教育の推進～

### 胆江地区

一 はじめに  
「GIGAスクール構想」の推進により、奥州市では、昨年度地区内全小中学校児童生徒に一人一台端末の配備及び通信ネットワーク環境等の整備が行われ、九月から各校での運用が始まった。各校の様子については共有する機会がなく、独自に進めている状況である。そこで、ICT教育の推進に向け、情報を共有する機会となることを願い、本校の取組をお伝えしたい。

二 ICTモデル校の指定

本校は今年度、ICT教育モデル校の指定を受けている。これは、市教委と連携し、一人一台端末の学校内における効果的な活用及び家庭への持ち帰り学習に係る先行実験を行い、実践事例の普及や課題等を明らかにするものである。この成果・課題については、実践事例研究発表を行い、市内各校と情報を共有することで、ICT教育の更なる拡充を図ることをねら

### 三 ICT活用指導の現状

本校の教員におけるICT機器の活用指導という視点から見ると、得意な教員はほとんど授業で活用し、苦手意識のある教員はなかなか手が伸びないという二極化の状況である。そこで、子どもたちが機器を活用する機会を保障することをねらいとし、以下の三点に取り組んでいる。

- ①校内操作講習会の開催
- ②外部研修会への参加
- ③ICT機器活用の実践交流及び計画の作成

これらの取組により、苦手意識が少しずつ払拭され、活用

することが増えてきている。また、各教科の年間指導計画へ活用を位置付けることで、系統的・計画的な指導の構築にもつながっている。

四 授業での活用

- ①推奨ソフトの活用
  - ・奥州市教育委員会では、一人一台端末をクロームブック、推奨ソフトをグループフォージェネレーションとしている。授業での活用は以下の通り。
  - 〔クラスルーム〕
    - ・ 掲示板機能で連絡確認
    - 〔ジャムボード〕
      - ・ 考えを書いた付箋を貼り付け、意見交換。
      - 〔ミート〕
        - ・ 教師からのプレゼン
        - ・ リモート授業
        - 〔スプレッドシート〕
          - ・ グラフ作成や資料整理
          - 〔フォームズ〕
            - ・ アンケートづくり
            - ・ Webを利用しての調べ学習等
            - ・ 教科書会社やNHK等が提示する資料等の視聴



5年：国語での活用の様子

知識・技能の確実な習得のため、AIDRILを活用している。どの学年においても、子どもたちは自分のペースで楽しみながら取り組んでいる。

### 五 家庭へ持ち帰り活用

奥州市では、クロームブックの持ち帰りはまだ実施されていない。家庭での通信環境が整わないと使用できないためである。そこで、本校はモデル校として、家庭への持ち帰りの先行実施（二学期から）を以下のように進めている。

- ①家庭の通信環境の把握
- ②モバイルルーター希望調査
- ③家庭使用のルールの周知
- ④家庭学習への活用内容検討

家庭への持ち帰りのスムーズな導入は、家庭の理解と協力を得ていくことが重要である。そのためには、各家庭の通信環境を把握し、持ち帰りへの説明と通信環境を整えるお願いを丁寧に進めていくことが重要である。今回の持ち帰りの進め方が、今後の市内各校の持ち帰りの参考事例となるよう成果と課題を検証していきたいと考える。

六 終わりに

ICT教育の推進は、これからの学校教育の可能性を大きく広げていくものである。子どもたちが、端末機器を一つのツールとして使いこなす、効果的な活用ができるよう組織として足並みをそろえて取り組んでいきたい。

また、昨今のコロナ禍にある状況だからこそ、これまでなかなかできなかった他地域の学校や施設との交流活動等にも活用し、交流の幅を広げていきたいものである。

（奥州市立江刺愛宕小学校 阿部 拓也）

## 事務局日誌抄

- 4月4日 第1回常任理事会(校長会事務局)  
 5日 東北連小岩手大会準備委員会第6回専門部会(サンセール盛岡)  
 15日 第2回常任理事会(校長会事務局)  
 21日 第3回常任理事会(校長会事務局)  
 22日 第60回岩手県小学校長会総会・研修会(盛岡市都南文化会館)  
 第1回理事会・第1回評議員会合同会議(盛岡市都南文化会館)  
 第1回総務部担当理事、地区事務局長合同会議(盛岡市都南公民館)  
 各部毎担当理事、地区担当者、専門委員合同会議(総務・行財政・研修・広報編集・生徒指導)(盛岡市都南公民館)  
 東北連小岩手大会第1回実行委員会(盛岡市都南文化会館)  
 26日 東北連小岩手大会事務局・各部打合せ会(盛岡市勤労福祉会館)
- 5月6日 第4回常任理事会(校長会事務局)  
 9日 第1回生徒指導委員会(盛岡市勤労福祉会館)  
 10日 第1回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)  
 東北連小岩手大会実行委員会第1回専門部会(先人記念館)  
 13日 第1回行財政対策委員会(盛岡市勤労福祉会館)  
 16日 全連小75周年記念誌拡大編集委員会(東京・KKRホテル東京)中村部長出席  
 20日 東北連小事務局会、東北連第1回理事会、東北連小感謝の会(アートホテル盛岡)  
 25日 第1回広報・編集委員会(盛岡市勤労福祉会館)  
 26日 全連小第241回理事会(東京・KKRホテル東京)紺野会長、佐藤部長、向折戸校長(久慈市立久慈小)出席  
 27日 全連小第74回総会(東京・ニッショーホール)紺野会長、佐藤部長、五十嵐校長(宮古市立千徳小)、向折戸校長(久慈市立久慈小)、馬淵校長(二戸市立仁左平小)出席  
 27日 第2回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)
- 6月6日 第5回常任理事会(校長会事務局)  
 8日 東北連小第1回教育課程委員会(メトロポリタン盛岡)  
 9日 第3回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)  
 13日 第2回理事会(盛岡市勤労福祉会館)  
 第1回東日本大震災対策特別委員会、東北連小岩手大会第2回実行委員会(盛岡市勤労福祉会館)  
 14日 東北連小岩手大会実行委員会第2回専門部会(松園公民館)  
 20日 第1回調査研究特別委員会・第4回調査研究委員会合同会議(盛岡市勤労福祉会館)  
 29日 臨時常任理事会(盛岡市勤労福祉会館)  
 全連小広報担当者連絡協議会(東京・KKRホテル東京)中村部長出席
- 7月1日 東北連小岩手大会実行委員会第3回専門部会(盛岡市立桜城小学校)  
 6日 東北連小第2回理事会、第62回東北連小岩手大会レセプション(メトロポリタン盛岡New Wing)  
 7日 第62回東北連小研究協議会岩手大会全体会(盛岡市民文化ホール)  
 8日 第62回東北連小研究協議会岩手大会分科会(盛岡駅周辺ホテル)  
 11日 全連小常任理事会(東京・全連小事務局)紺野会長出席  
 12日 全連小小学校長会長連絡協議会(東京・KKRホテル東京)紺野会長出席  
 15日 第6回常任理事会(校長会事務局)  
 25日 東北連小岩手大会実行委員会第4回専門部会(サンセール盛岡)  
 26日 第5回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)  
 27日 岩手県教育委員会へ要望訪問  
 29日 第2回生徒指導委員会(盛岡市勤労福祉会館)  
 全連小75周年記念誌編集委員会(リモート)中村部長出席
- 8月17日 第3回生徒指導委員会、東北連小岩手大会広報編集部会(盛岡市勤労福祉会館)  
 24日 第2回行財政対策委員会(盛岡市勤労福祉会館)  
 25日 全連小75周年記念誌拡大編集委員会(東京・KKRホテル東京)中村部長出席  
 岩手県教育委員会との教育懇談会(サンセール盛岡)常任理事出席  
 26日 第7回常任理事会(校長会事務局)  
 29日 東日本大震災被災地視察訪問(大船渡市立大船渡小学校)後藤副会長、吉田部長、藤原部長
- 9月1日 東日本大震災被災地視察訪問(田野畑村立田野畑小学校)紺野会長、後藤副会長、和田部長  
 5日 第2回生徒指導部担当理事、地区生徒指導担当者、生徒指導委員合同会議及び小・中学校生徒指導情報交流会(盛岡市都南総合支所)  
 学制150年記念式典(東京・国立劇場)紺野会長出席  
 6日 第3回行財政対策委員会、第6回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)  
 東日本大震災被災地視察訪問(釜石市立釜石小学校)紺野会長、佐藤部長、中村部長  
 第2回広報・編集委員会(盛岡市勤労福祉会館)
- 15~16日 東京電力福島第一原発等視察研修(福島県内)後藤副会長・吉田部長出席  
 16日 第3回理事会(盛岡市勤労福祉会館)  
 21日 臨時常任理事会(校長会事務局)  
 22日 全連小常任理事会(東京・全連小事務局)紺野会長出席  
 27日 第4回生徒指導委員会(盛岡市勤労福祉会館)  
 28日 第7回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)  
 29日 全連小三地区対策・調研担当者連絡協議会(東京・KKRホテル東京)紺野会長、和田部長、吉田部長出席

## 編集後記

七月七日、八日の二日間におたり、第六十二回東北連合小学校長会研究協議会岩手大会が開催されました。コロナ禍のもと、三年ぶりの参加型での東北大会実現に向け、会員一同、心を一つに取り組んだ約二年間でした。

会報を編集するにあたり、大会を振り返ることができました。東北六県の会員が同じ空間に集い、学校経営への思いや願い、取組について語り、共有したり協議したりすることの大切さを改めて実感したところです。また、同じ会場において、全員でプレゼンテーションを見、全員でシンポジウムを聴くことを通して、復興や教育に対する思いを共にすることができました。二日目の分科会は、活発な協議が行われ、どの会場も熱気にあふれていました。その様子は、「分科会報告」という形でご寄稿していただきました。お忙しい中、ご執筆いただいた校長先生方に感謝申し上げます。

次号では、十月七日に開催された岩手県小・中学校長研究会、十月十四日に開催された全連合小学校長会研究協議会の様子を掲載する予定です。

今後も研修の機会を大切に、校長としての力を高めるとともに、岩手県小学校長会の連携を深めたいと思います。

(担当 中村 幸子)